



VERB

NOUN

ADV

ADJ

# Parts of Speech First

— THE BEGINNING OF —  
ENGLISH INTERPRETATION



選択肢

- ① matters      ② whether      ③ prevent      ④ gradual  
⑤ underestimate ⑥ when      ⑦ ordinary      ⑧ guided  
⑨ what      ⑩ hesitate      ⑪ which      ⑫ yet  
⑬ instead of      ⑭ however      ⑮ practical

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

### 解答

- (1) ⑭ however (2) ⑦ ordinary  
(3) ④ gradual (4) ⑤  
underestimate (5) ③ prevent  
(6) ⑥ when (7) ② whether (8)  
⑪ which (9) ⑮ practical (10)  
⑧ guided  
(11) ⑨ what (12) ⑫ yet (13) ⑩  
hesitate (14) ① matters (15)  
⑬ instead of

### 解答解説

- (1) 正解 ⑭ however  
空所は文頭にあり、後ろにカンマがあります。ここには文と文を意味的につなぐ接続副詞が入ります。前文では「大きな変化は一つの大きな決断から始まると思われている」と述べ、後文では「実際には小さな選択の積み重ねから始まる」と述べています。内容が逆接なので however「しかしながら」が適切です。
- (2) 正解 ⑦ ordinary  
空所の前に seem があります。seem の後ろには形容詞が入り、「～に見える」という意味になります。
- (3) 正解 ④ gradual  
空所の後ろに effect という名詞があります。したがって、ここには名詞を修飾する形容詞が入ります。
- (4) 正解 ⑤ underestimate  
空所は主語 people の述語動詞の位置です。後ろに the power of small actions「小さな行動の力」が続いているので、他動詞が必要です。
- (5) 正解 ③ prevent  
空所の後ろに them from starting があります。これは prevent A from

～ing「A が～するのを妨げる」の形です。

(6) 正解 ⑥ when  
空所の後ろには life becomes busy という完全な節があります。ここには接続詞が必要です。even when ～で「～するときでさえ」という意味になります。

(7) 正解 ② whether  
The point is not A, but whether B の形です。whether は「～かどうか」という名詞節を導きます。

(8) 正解 ⑪ which  
空所の前に前置詞 in があり、先行詞は situations です。in which small decisions matter で「小さな決断が重要になる状況において」という意味になります。in which は where に近い働きをします。

(9) 正解 ⑮ practical  
空所の前に they are があります。be 動詞の後ろなので、補語になる形容詞が必要です。

(10) 正解 ⑧ guided  
空所の前に is often があり、後ろに by ordinary choices があります。したがって、be 動詞＋過去分詞＋by の受動態が必要です。

(11) 正解 ⑨ what  
空所は through の後ろにあり、前置詞の目的語になる名詞節が必要です。

(12) 正解 ⑫ yet  
前半では「小さな一歩は弱く見える」と述べ、後半では「強い結果につながる」と述べています。内容が逆接なので yet「それでも、しかし」が適切です。

---

(13) 正解 ⑩ hesitate

空所の前に should not があるため、後ろには動詞の原形が必要です。hesitate は「ためらう」という意味です。

(14) 正解 ① matters

What ( 14 ) most is... の形です。

(15) 正解 ③ instead of

空所の後ろに giving up という動名詞があります。instead of ~ing で「~する代わりに」という意味になります。

---

### 全訳

多くの人は、重要な変化は一つの大きな決断から始まると考えています。しかし実際には、多くの変化は毎日繰り返される小さな選択から始まります。より健康になりたい人は、すべてを一度に変える必要はありません。

例えば、エレベーターの代わりに階段を選ぶことは、ありふれたことに見えるかもしれませんが、そのような小さな行動も繰り返されることで意味のあるものになります。日々の習慣は、時間をかけて徐々に効果をもたらすことがよくあります。

一つの問題は、人々がしばしば小さな行動の力を過小評価してしまうことです。彼らは、劇的な努力だけが結果を生み出すと信じています。この考えは、彼らが何かを始めること自体を妨げてしまうかもしれません。

良い習慣は、生活が忙しくなったときでも続けられるほど簡単なものであるべきです。大切なのは、完璧にできるかどうかではなく、それを続けられるかどうかです。

小さな決断が重要になる場面は数多くあります。生徒は寝る前に一ページだけ復習するかもしれません。会社員は職場を離れる前に翌日の仕事の準備をするかもしれません。これらの行動は目立つものではありませんが、とても実用的です。

結局のところ、進歩はしばしば日常の選択によって導かれます。人は特別な出来事だけによって変わるのではなく、毎日行うことによっても変わります。小さな一歩は弱々しく見えるかもしれませんが、それでも大きな成果につながる可能性があります。

長い旅と同じように、本当の変化には忍耐が必要です。結果がすぐに現れないからといって、ためらうべきではありません。ゆっくりとした過程であっても、正しい方向へ進んでいるなら価値があります。最も重要なのは、あきらめる代わりに続ける力なのです。



not be afraid of questions ( 9 ) there is no easy answer.

In many cases, learning occurs when students are challenged. A difficult problem may leave them ( 10 ) at first, but it may also help them discover a better way of thinking. The confidence gained from solving such problems can be ( 11 ) greater than the satisfaction of answering an easy question.

Good teachers understand this process. They know that students should be guided, not protected from every difficulty. A student may learn more from a difficult question ( 12 ) from an easy explanation.

In the end, mistakes are not obstacles to learning. They are part of the learning process itself. A person who keeps trying ( 13 ) often be much wiser than someone ( 14 ) avoids challenges. For this reason, mistakes should be seen ( 15 ) opportunities rather than failures.

選択肢

- ① whether      ② from      ③ will      ④ how  
⑤ why      ⑥ far      ⑦ who      ⑧ as  
⑨ where      ⑩ regarded      ⑪ to      ⑫ than  
⑬ much      ⑭ rather      ⑮ confused

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

## 解答

(1) ② from (2) ⑩ regarded (3) ⑬ much (4) ⑪ to (5) ⑭ Rather (6) ④ how (7) ⑤ why (8) ① whether (9) ⑨ where (10) ⑮ confused (11) ⑥ far (12) ⑫ than (13) ③ will (14) ⑦ who (15) ⑧ as

---

## 解答解説

(1) 正解 ② from  
develop from A「A から発展する」の形です。

(2) 正解 ⑩ regarded  
be regarded as A「A とみなされる」の形です。

(3) 正解 ⑬ much  
much + 比較級の形です。much fewer mistakes で「はるかに少ない失敗」という意味になります。few の比較級 fewer を much が強めています。

(4) 正解 ⑪ to  
The purpose is not to make students uncomfortable. の形です。

(5) 正解 ⑭ Rather  
前文では「生徒を不快にすることが目的ではない」と述べ、後文では「深い思考を促すことが目的である」と述べています。Rather は「むしろ」という意味の副詞です。

(6) 正解 ④ how  
how much S V の間接疑問です。

(7) 正解 ⑤ why  
explain why S V「なぜ～なのかを説明する」の形です。explain why an answer is wrong で「なぜ答えが間違っているのかを説明する」となります。

(8) 正解 ① whether  
whether S V「～かどうか」という名詞節を導きます。

(9) 正解 ⑨ where  
questions where there is no easy answer で「簡単な答えのない問題」という意味になります。

(10) 正解 ⑮ confused  
leave O C の SVOC です。

(11) 正解 ⑥ far  
far + 比較級の形です。far greater than ... で「～よりはるかに大きい」となります。far は比較級を強める副詞です。

(12) 正解 ⑫ than  
more A than B の比較構文です。

(13) 正解 ③ will  
A person who keeps trying will often be ... の形です。主語は A person who keeps trying で、その述語動詞を作る助動詞 will が必要です。

(14) 正解 ⑦ who  
someone who avoids challenges の形です。who は関係代で、先行詞 someone を修飾しています。「困難を避ける人」という意味です。

(15) 正解 ⑧ as  
see A as B「A を B とみなす」の形です。mistakes should be seen as opportunities で「失敗は機会とみなされるべきだ」となります。

---

## 全訳

多くの生徒は失敗することを嫌います。答えを間違えると恥ずかしいと感じることがよくあります。しかし、学習はしばしば成功だけでなく失敗から発展しま

す。実際、人は最初から正しく理解できたことよりも、間違いから多くを学ぶことがよくあります。

その理由の一つは、失敗が「自分が信じていること」と「実際に正しいこと」との違いを示してくれるからです。この違いは、生徒により深く考えさせることがあります。失敗は、失敗ではなく価値ある情報としてみなされることがあります。

生徒の中には他人と自分を比べて落ち込んでしまう人もいます。彼らは、成績の良い生徒ははるかに少ない失敗しかなしなと思っています。しかし実際には、優秀な生徒も多くの失敗をしますが、あきらめずに努力を続けます。

教師はしばしば、すぐには答えがわからない質問をします。その目的は生徒を不快にさせることではありません。むしろ、その目的はより深い思考を促すことにあります。生徒は、間違いを修正した後自分がどれほど多くのことを学んだかに驚くことがあります。

失敗は記憶力を高めることにも役立ちます。訂正された情報は、より鮮明に記憶されることがよくあります。これが、教師が生徒に「なぜその答えが間違っているのか」を説明させる理由の一つです。

もちろん、生徒が失敗を正直に振り返る場合にのみ、失敗は役立ちます。自分の誤りを無視する生徒は、その経験

からまったく利益を得られないかもしれません。一方で、注意深く振り返る生徒は着実に成長することができます。

生徒は、その失敗が単なる不注意によるものなのか、それとももっと深い誤解によるものなのかを考えるべきです。また、簡単な答えのない問題を恐れるべきではありません。

多くの場合、生徒は挑戦を与えられたときに学習します。難しい問題は最初は生徒を混乱させるかもしれませんが、それによってより良い考え方を発見する助けになることもあります。そのような問題を解決して得られる自信は、簡単な問題に答えたときの満足感よりもはるかに大きいことがあります。

優れた教師はこの過程を理解しています。彼らは、生徒があらゆる困難から守られるべきではなく、適切に導かれるべきだと知っています。生徒は、簡単な説明よりも難しい問題から多くを学ぶことがあります。

結局のところ、失敗は学習の妨げではありません。失敗そのものが学習過程の一部なのです。努力し続ける人は、困難を避ける人よりもずっと賢くなるでしょう。そのため、失敗は失敗としてではなく、成長の機会として捉えられるべきなのです。



of time. Students should think carefully about ( 13 ) they use their nights. A healthy daily rhythm can ( 14 ) them study better, and poor sleep can leave them ( 15 ) the next morning.

選択肢

- ① how                      ② clear                      ③ nevertheless    ④ with  
⑤ help                      ⑥ which                      ⑦ whatever            ⑧ successful  
⑨ who                      ⑩ to                      ⑪ tired                      ⑫ why  
⑬ as                      ⑭ less                      ⑮ attention

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

## 解答

(1) ③ nevertheless (2) ⑦ whatever (3) ⑮ attention (4) ⑫ why (5) ⑭ less (6) ⑧ successful (7) ⑥ which (8) ⑩ to (9) ④ with (10) ⑨ who (11) ② clear (12) ⑬ as (13) ① how (14) ⑤ help (15) ⑪ tired

## 解答解説

(1) 正解 ③ nevertheless  
前文と後文が逆接関係です。nevertheless「それにもかかわらず」が適切です。

(2) 正解 ⑦ whatever  
remember whatever they have learned で「学んだことは何でも覚えている」という意味です。

(3) 正解 ⑮ attention  
pay attention「注意を払う」の形です。pay enough attention in class で「授業中に十分注意を払う」となります。

(4) 正解 ⑫ why  
This is one reason why S V「これが～する理由の一つである」の形です。

(5) 正解 ⑭ less  
less useful than ～「～より役に立たない」という比較表現です。

(6) 正解 ⑧ successful  
make O C「OをCにする」の形です。make the next day's study more successful で「翌日の勉強をよりうまくいくものにする」となります。

(7) 正解 ⑥ which  
things which they later regret の形です。which は先行詞 things を修飾する関係代です。

(8) 正解 ⑩ to

too ~ to V「～すぎて V できない」の形です。too sleepy to listen carefully となります。

(9) 正解 ④ with  
be connected with A「Aと関係がある」の形です。

(10) 正解 ⑨ who  
A student who sleeps well の形です。who は先行詞 A student を修飾する関係代です。

(11) 正解 ② clear  
keep O C「OをCの状態に保つ」の形です。keeps the mind clear で「頭をはっきりした状態に保つ」となります。

(12) 正解 ⑬ as  
see A as B「AをBとみなす」の受動態です。sleep should be seen as an important part of study となります。

(13) 正解 ① how  
how they use their nights で「夜をどのように使うか」という間接疑問です。

(14) 正解 ⑤ help  
help O 原形不定詞「Oが～するのを助ける」の形です。

(15) 正解 ⑪ tired  
leave O C「OをCの状態にする」の形です。leave them tired で「彼らを疲れた状態にする」となります。

## 全訳

多くの生徒はテスト前に夜更かしをします。彼らは、勉強時間が増えればよりよい結果につながると考えます。最初は、この考えはもっともらしく思えるかもしれませんが、しかし、睡眠を減らすと勉強の効果が下がることがあります。疲れた

脳はうまく働きません。十分に眠らない生徒は、自分が学んだことを覚えておくのが難しいと感じることがよくあります。また、授業中に十分注意を払えないために、簡単なミスをすることもあります。

睡眠は脳が情報を整理するのを助けます。生徒が眠っている間、脳は新しい考えを見直し、それを以前の知識と結びつけます。これが、睡眠が学習にとって重要である理由の一つです。生徒が何時間も教科書を読むことはありますが、その生徒が疲れすぎていれば、その時間は無駄になるかもしれません。夜遅くまで勉強することは、早めにやめてよく眠ることより役に立たないことがあります。よい睡眠は、翌日の勉強をより成功しやすくします。

睡眠不足は感情にも影響します。生徒が疲れていると、小さな問題が実際よりずっと大きく思えることがあります。生徒は怒ったり心配したりしやすくなり、あとで後悔することを言うてしまうこともあ

ります。授業中には、眠すぎて注意深く聞けないかもしれません。このようなことがよく起これば、学校生活は難しくなります。睡眠は健康だけの問題ではありません。気分、人間関係、日々の行動とも関係しています。

もちろん、生徒にはやるべきことがたくさんある場合もあります。同じ週に宿題、部活動、テストがあるかもしれません。それでも、生徒は睡眠を守ろうとすべきです。よく眠る生徒は、たいていより学ぶ準備ができています。十分な睡眠は頭をはっきりした状態に保ち、生徒が翌日に向き合うのを助けます。結局、睡眠は時間の無駄ではなく、勉強の重要な一部とみなされるべきです。生徒は夜の使い方について注意深く考えるべきです。健康的な生活リズムは、彼らがよりよく勉強するのを助け、悪い睡眠は翌朝彼らを疲れた状態にすることがあります。



a small amount of exercise can help by improving concentration and mood. For this reason, many students find that light exercise becomes a useful daily ( 14 ). Students who continue this practice often find ( 15 ) easier to begin studying and stay focused.

選択肢

- ① capable      ② after      ③ what      ④ wasted  
 ⑤ encouraged   ⑥ running   ⑦ reduce   ⑧ it  
 ⑨ increases    ⑩ whereas   ⑪ effort    ⑫ habit  
 ⑬ refreshed    ⑭ likely     ⑮ through

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

## 解答

(1) ④ wasted (2) ⑬ refreshed  
(3) ⑪ effort (4) ⑨ increases (5)  
⑦ reduce (6) ① capable (7) ⑮  
through (8) ③ what (9) ② after  
(10) ⑩ whereas (11) ⑭ likely  
(12) ⑤ encouraged (13) ⑥  
running (14) ⑫ habit (15) ⑧ it

## 解答解説

(1) 正解 ④ wasted  
time wasted で「無駄にされた時間」。  
wasted は過去分詞で、time を後ろ  
から説明しています。

(2) 正解 ⑬ refreshed  
leave O C の形です。leave  
students feeling more refreshed  
で「生徒をよりすっきりした気分させる」  
となります。

(3) 正解 ⑪ effort  
the effort required で「必要な努  
力」。required が effort を後ろから  
修飾しています。

(4) 正解 ⑨ increases  
主語は exercise です。exercise  
increases blood flow で「運動は血  
流を増やす」となります。

(5) 正解 ⑦ reduce  
can の後ろなので動詞の原形が必要  
です。reduce stress で「ストレスを減  
らす」となります。

(6) 正解 ① capable  
be capable of ~ing「~する能力が  
ある」。capable of dealing with  
difficult tasks で「難しい課題に対  
処できる」となります。

(7) 正解 ⑮ through  
through regular preparation で

「規則的な準備を通して」。手段・過程を  
表す前置詞です。

(8) 正解 ③ what  
understand what they read で  
「読んだことを理解する」。what は  
understand の目的語になる名詞節  
を作ります。

(9) 正解 ② after  
after a short walk で「短い散歩の  
後で」。after は前置詞です。

(10) 正解 ⑩ whereas  
「疲れたり緊張したりする生徒」と「退屈  
する生徒」の対比です。whereas は  
「一方で」を表します。

(11) 正解 ⑭ likely  
be likely to V「~しそうである」。  
more likely to begin studying で  
「勉強を始めやすい」となります。

(12) 正解 ⑤ encouraged  
feel encouraged で「励まされた気  
持ちになる」。encouraged は形容詞  
的に使われています。

(13) 正解 ⑥ running  
Running hard for a long time で  
「長時間激しく走ること」。running は  
文の主語になる動名詞です。

(14) 正解 ⑫ habit  
a useful daily habit で「有益な毎日  
の習慣」という意味です。

(15) 正解 ⑧ it  
find it C to V の形式目的語構文で  
す。find it easier to begin  
studying で「勉強を始めることがより  
簡単だとわかる」となります。

## 全訳

多くの生徒は、机に座るとすぐに勉強  
を始めます。彼らは、本から離れて過ご

す時間は無駄にされた時間だと考えることがよくあります。それにもかかわらず、勉強の前に短時間の軽い運動をすることは、学習を向上させるかもしれません。短い散歩や簡単なストレッチは、生徒をよりすっきりした気分にするがあります。その結果、生徒は自分の勉強によりよく集中できるかもしれません。ほんの数分の動きでも違いを生むことがあり、必要な努力は驚くほど小さいのです。

一つの理由は、運動が体全体の血流を増やすことです。より多くの酸素が脳に届き、それによって生徒はより明確に考えられるかもしれません。軽い運動はストレスを減らすこともできます。テストを心配している生徒は、数分間動き回った後、難しい課題により対処できると感じるかもしれません。学習は、規則的な準備を通して向上することが多く、運動はその過程の一部になり得ます。生徒はまた、軽く体を動かした後、自分が読んだことをより簡単に理解できることに気づくかもしれません。

短い散歩の後、多くの生徒はより目が覚め、勉強する準備ができたと感じま

す。運動は脳に役立つだけではありません。気分を改善することもできます。勉強の前に疲れたり緊張したりする生徒もいれば、一方で退屈を感じる生徒もいます。軽い運動はその両方のグループを助けるかもしれません。生徒は体が楽に感じられると、勉強を始めやすくなります。数分間動いた後、彼らは以前よりも励まされた気持ちになるかもしれません。

もちろん、勉強前の運動は簡単なものであるべきです。長時間激しく走るとは、逆の効果をもたらすかもしれません。目的は運動選手になることではなく、心を準備することです。結局、最も重要なのは、生徒がはっきりした頭で勉強を始められるかどうかです。少量の運動でさえ、集中力と気分を改善することによって役立つことがあります。このため、多くの生徒は軽い運動が有益な毎日の習慣になると気づきます。この実践を続ける生徒は、勉強を始めて集中し続けることがより簡単だと感じるがよくあります。



check their bags ( 12 ) going to bed, not only in the morning. They should also avoid leaving school items ( 13 ) in different places around the room. Keeping things in order helps students feel calmer and makes it easier to remember ( 14 ) they need. If students make tidying up a daily practice, they may forget far fewer things. This shows that organization is not a small matter, but a useful skill ( 15 ) supports school life.

選擇肢

- ① harder            ② what            ③ itself            ④ before  
 ⑤ each            ⑥ misplaced    ⑦ that            ⑧ searching  
 ⑨ whose           ⑩ easier           ⑪ on            ⑫ behind  
 ⑬ necessary      ⑭ away           ⑮ where

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

## 解答

(1) ③ itself (2) ⑥ misplaced (3) ⑬ necessary (4) ⑮ where (5) ⑤ each (6) ⑧ searching (7) ⑩ easier (8) ⑪ on (9) ① harder (10) ⑨ whose (11) ⑭ away (12) ④ before (13) ⑫ behind (14) ② what (15) ⑦ that

## 解答解説

(1) 正解 ③ itself  
memory itself で「記憶そのもの」という意味です。itself は直前の memory を強調しています。

(2) 正解 ⑥ misplaced  
items are misplaced で「物が置き違えられる」という受動態です。messy 「散らかった」と内容がつながります。

(3) 正解 ⑬ necessary  
something necessary で「必要なもの」という意味です。-thing で終わる語は、形容詞が後ろから修飾します。

(4) 正解 ⑮ where  
know where each thing is で「それぞれの物がどこにあるかを知る」となります。where は間接疑問を導きます。

(5) 正解 ⑤ each  
books, pens, and papers each have their own place で「本、ペン、紙がそれぞれ自分の場所を持つ」となります。

(6) 正解 ⑧ searching  
spend 時間 ~ing「~して時間を費やす」の形です。spend a long time searching for missing items で「なくなった物を探すのに長い時間を費やす」となります。

(7) 正解 ⑩ easier

make it easier to V の形です。it は形式目的語で、to check before leaving home が真の目的語です。

(8) 正解 ⑪ on  
depend on A「A に頼る」の形です。depend too much on memory で「記憶に頼りすぎる」となります。

(9) 正解 ① harder  
feel harder than ~ の比較です。「実際より難しく感じられる」という意味になります。

(10) 正解 ⑨ whose  
The student whose desk is always full of papers で「机がいつも紙でいっぱいの生徒」となります。whose は所有を表す関係代です。

(11) 正解 ⑭ away  
take away A「A を奪う」の形です。take away time and energy で「時間とエネルギーを奪う」となります。

(12) 正解 ④ before  
before going to bed で「寝る前に」という意味です。before は前置詞で、後ろに動名詞 going が続いています。

(13) 正解 ⑫ behind  
leave A behind「A を置き忘れる」の形です。leaving school items behind で「学校の持ち物を置き忘れる」となります。

(14) 正解 ② what  
remember what they need で「自分たちに必要なものを覚えておく」となります。what は remember の目的語になる名詞節を作ります。

(15) 正解 ⑦ that  
a useful skill that supports school life で「学校生活を支える役に立つ技能」となります。that は関係

代で、先行詞 skill を修飾します。

### 全訳

一部の生徒は、教科書、ノート、宿題を持ってくるのをよく忘れます。彼らは、自分は単に記憶力が悪いのだと言うかもしれません。本当の問題は、時には記憶そのものではありません。それは、家で物をどのように保管しているかにあるのかもしれません。机やかばんがいつも散らかっていると、大切な物は簡単に置き換えられてしまいます。物をすぐに見つけられない生徒は、必要な物を持たずに家を出てしまうことがあります。このように、忘れ物は、生徒が家を出る前から始まっていることがあります。

片付けは、単に部屋をきれいに見せるためだけのものではありません。それはまた、生徒がそれぞれの物がどこにあるかを知る助けにもなります。本、ペン、プリントがそれぞれ決まった場所を持っていれば、生徒はより簡単に学校の準備ができます。朝に、なくなった物を探すために長い時間を費やす必要はありません。簡単なルールが役立つことがあります。たとえば、宿題を毎日同じフォルダーに入れることで、家を出る前に確認しやすくなります。そのような習慣は小さく見えるかもしれませんが、とても実用的です。

物を片付けない人は、記憶に頼りすぎるのがよくあります。彼らはすべてがどこにあるかを覚えていると思っていますが、これはいつも正しいとは限りませんが、疲れていたり急いでいたりすると、大切な物さえ忘れてしまうことがあります。散らかった部屋は、小さな作業を実際よりも難しく感じさせることもあります。生徒は一枚のプリントを探すために時間を無駄にすることがあり、それによってさらにストレスを感じることもあります。机がいつもプリントでいっぱい生徒は、何を最初にすべきかを決めるのも難しいと感じるかもしれません。無秩序は時間とエネルギーを奪うことがあります。

もちろん、誰も常に完璧に整理整頓できるわけではありません。しかし、小さな習慣は忘れ物を減らすことができます。生徒は朝だけでなく、寝る前にかばんを確認すべきです。また、学校で使う物を部屋のあちこちに置き忘れることも避けるべきです。物を整理しておくことは、生徒が落ち着いて感じる助けとなり、必要な物を思い出しやすくなります。もし生徒が片付けを毎日の習慣にすれば、忘れる物ははるかに少なくなるかもしれません。これは、整理整頓が小さなことではなく、学校生活を支える役に立つ技能であることを示しています。



may become too busy if a person tries to please everyone. The important point is not just the number of groups, but the quality of the connections. People need places where they can speak honestly. A good group makes people feel ( 13 ), not judged. In this way, having several places to belong can give people quiet comfort. It ( 14 ) them that they do not have to face every worry alone. This idea may seem simple, ( 15 ) it is one of the reasons people feel secure in society.

選擇肢

- ① purpose            ② as                    ③ can                    ④ welcomed  
 ⑤ why                 ⑥ if                     ⑦ less                   ⑧ yet  
 ⑨ no                   ⑩ the                   ⑪ reminds              ⑫ while  
 ⑬ when               ⑭ ease                 ⑮ secure

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

## 解答

(1) ③ can (2) ⑤ why (3) ⑨ no  
(4) ⑬ when (5) ⑦ less (6) ⑫  
while (7) ① purpose (8) ⑩ the  
(9) ⑮ secure (10) ② as (11) ⑥ if  
(12) ⑭ ease (13) ④ welcomed  
(14) ⑪ reminds (15) ⑧ yet

## 解答解説

(1) 正解 ③ can  
Having several groups can make  
the mind feel safer. の形です。  
can は助動詞で、「～することができる」  
「～し得る」を表します。

(2) 正解 ⑤ why  
This is why S V「これが～する理由  
である」の形です。ここでは「これが、複  
数の集団に所属することが心の健康を  
支える理由である」となります。

(3) 正解 ⑨ no  
no reason to V「～する理由がない」  
の形です。no reason to depend on  
only one place で「一つの場所だけ  
に頼る理由がない」となります。

(4) 正解 ⑬ when  
when life is difficult で「人生が困  
難なとき」という意味です。when は時  
を表す副詞節を導きます。

(5) 正解 ⑦ less  
feel less afraid of problems で  
「問題をそれほど恐れなくなる」という意  
味です。less は比較級で「より少なく」  
を表します。

(6) 正解 ⑫ while  
A, while B「A である一方で B」の形  
です。クラブと家族の役割を対比してい  
ます。

(7) 正解 ① purpose

its own purpose で「それぞれ独自の  
役割・目的」という意味です。own と  
結びついて名詞 purpose が入ります。

(8) 正解 ⑩ the  
the support of one group で「一つ  
の集団からの支援」という意味です。後  
ろの of one group によって  
support が限定されています。

(9) 正解 ⑮ secure  
make a person feel more secure  
の形です。secure は「安心した」という  
形容詞で、feel の補語になります。

(10) 正解 ② as  
as they meet others with  
different ideas で「異なる考えを持  
つ人々と出会うにつれて」という意味で  
す。

(11) 正解 ⑥ if  
if one role becomes difficult で  
「もし一つの役割が難しくなったら」とい  
う条件を表します。

(12) 正解 ⑭ ease  
ease anxiety で「不安を和らげる」と  
いう意味です。can の後ろなので動詞  
の原形 ease が入ります。

(13) 正解 ④ welcomed  
feel welcomed で「歓迎されていると  
感じる」という意味です。welcomed  
は形容詞的に使われています。

(14) 正解 ⑪ reminds  
remind A that S V「A に～というこ  
とを思い出させる」の形です。主語 It が  
三人称単数なので reminds になりま  
す。

(15) 正解 ⑧ yet  
A, yet B「A だが、それでも B」の形で  
す。前後が逆接関係なので yet が適  
切です。

## 全訳

多くの人は複数の集団に所属しています。生徒は家族、クラス、部活動、友人グループなどに所属しているかもしれません。これらの集団は、人々に受け入れられていると感じられるさまざまな場所を与えてくれます。もし人が一つの集団にしか属していなければ、その集団で起こる問題は非常に深刻に感じられるかもしれません。複数の集団を持つことは、心をより安心させることができます。もし一つの場所が居心地の悪いものになっても、別の場所が支えを与えてくれるかもしれません。これが、複数の集団に所属することが心の健康を支える理由です。それは、人々に一つの場所だけに頼る理由を与えません。このようにして、人生が困難なときでも心はより安定しやすくなります。

帰属意識は、人々が問題をそれほど恐れなくなる助けとなります。誰かが自分を気にかけてくれているとわかれば、生徒はストレスにより落ち着いて向き合うことができます。部活動は学校外で自信を与える一方で、家族は家庭で支えを与えてくれます。それぞれの集団には独自の役割があります。そして、それらが合わさることで人生はより安定したものになります。一つの集団は勉強を助け、別の集団は感情面を支えるかもしれません。所属する場所が多いほど、一つの集団からの支援を失うこ

とへの不安は小さくなります。

異なる集団は、人々が自分自身をさまざまな形で見るとともに助けるようになります。クラスではおとなしい生徒が、運動部では活発かもしれません。学校では自信がない人が、家庭では頼りにされているかもしれません。こうした経験は、人をより安心させます。また、一つの失敗がその人のすべてを決めるわけではないことも教えてくれます。人は異なる考えを持つ人々と出会うにつれて、より心を開くようになるかもしれません。もし一つの役割がうまくいかなくても、複数の役割を持つ人は立ち直りやすくなります。このような経験は不安を和らげ、自分自身をより広い視点で見るとなりま

す。もちろん、多くの集団に所属することが必ずしも幸福をもたらすわけではありません。誰もかれも喜ばせようとする、人生は忙しすぎるものになるかもしれません。大切なのは集団の数だけではなく、そのつながりの質です。人々には本音を話せる場所が必要です。良い集団は、人を批判するのではなく、歓迎されていると感じさせます。このように、複数の帰属先を持つことは人々に静かな安心感を与えてくれます。それは、人々に一人ですべての悩みを抱える必要はないことを思い出させます。この考えは単純に見えるかもしれませんが、それでも人々が社会の中で安心感を持つ理由の一つなのです。



also discover that a belief once thought correct was actually ( 13 ).

In short, a classroom without questions may look quiet and orderly, but it is not always a place where real learning happens. Questions connect teachers and students, reveal hidden problems, and make thought visible. A student who is well ( 14 ) to ask questions is also better able to listen carefully and think independently. Questions, therefore, are not interruptions but ( 15 ) tools for learning.

選択肢

- ① during            ② which            ③ far            ④ as  
⑤ where            ⑥ learning            ⑦ while            ⑧ though  
⑨ so            ⑩ the            ⑪ prepared            ⑫ notices  
⑬ what            ⑭ useful            ⑮ mistaken

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
(11)	(12)	(13)	(14)	(15)					

## 解答

(1) ② which (2) ④ as (3) ⑬ what  
(4) ⑤ where (5) ⑦ while  
(6) ⑩ the (7) ① during (8) ⑧  
though (9) ⑫ notices (10) ⑨ so  
(11) ③ far (12) ⑥ learning (13) ⑮  
mistaken (14) ⑪ prepared (15) ⑭  
useful

## 解答解説

(1) 正解 ② which  
空所の後ろに points という名詞があります。they do not want others to know which points they do not understand で「自分がどの点を理解していないかを他人に知られたくない」という意味になります。which はここでは「どの～」という意味で、名詞 points を修飾しています。

(2) 正解 ④ as  
Difficult as it may seem は「形容詞 + as + S + V」の譲歩構文です。「どれほど難しく思えても」という意味になります。

(3) 正解 ⑬ what  
空所は reveal の目的語になる名詞節を導く位置です。reveal what the student already knows で「生徒がすでに知っていることを明らかにする」となります。what は先行詞を含む関係代名詞です。

(4) 正解 ⑤ where  
空所の前に a classroom atmosphere があります。後ろには students feel safe enough to ask questions という完全な節が続いています。「生徒が安心して質問できる雰囲気」という意味なので、場所・状況を表す関係副詞 where が適切です。

(5) 正解 ⑦ while  
Some students are confident, while others are afraid... の形です。while は

ここでは「～している間」ではなく、「一方で」という対比を表す接続詞です。前後の節を比較していることが判断のポイントです。

(6) 正解 ⑩ the  
Questions are all the more useful because ... は all the more because ~「～なのでなおさら」という重要表現です。the は比較級 more と結びついて、理由によって程度がさらに増すことを表します。

(7) 正解 ① during  
空所の後ろには a difficult lesson という名詞句があります。during は前置詞なので、後ろに名詞句を取ります。during a difficult lesson で「難しい授業の間に」という意味になります。

(8) 正解 ⑧ though  
It may seem small at first; it can, though, open the way... の形です。though はここでは文中に挿入された副詞で、「しかしながら」「それでも」という意味を表します。接続詞として節を導いていない点が重要です。

(9) 正解 ⑫ notices  
空所は A student who (9) a small doubt early の関係代名詞節内の述語動詞です。先行詞は A student で三人称単数なので、動詞には三単現の s が必要です。したがって notices が適切です。

(10) 正解 ⑨ so  
ask a question so clearly that others can understand it は so + 副詞 + that S V の構文です。「他の人が理解できるほど明確に質問する」という意味になります。clearly が副詞なので、その前に so が入ります。

(11) 正解 ③ far  
They are far from being a waste of time. は far from ~ing「決して～ではな

い」という熟語です。from の後ろには動名詞 being が続いています。

(12) 正解 ⑥ learning

Once that point is found, learning becomes much more focused. の形で、空所は文の主語です。learning は動名詞で、「学ぶこと」「学習」という名詞の働きをしています。

(13) 正解 ⑮ mistaken

空所の前に was actually があります。be 動詞の後ろなので、補語になる形容詞が必要です。mistaken は「間違った」という意味の過去分詞形容詞です。

(14) 正解 ⑩ prepared

A student who is well prepared to ask questions の形です。be prepared to V で「V する準備ができています」という意味になります。prepared は過去分詞形容詞として使われています。

(15) 正解 ⑭ useful

空所の後ろに tools という名詞があります。したがって、名詞を修飾する形容詞が必要です。useful tools で「役に立つ道具」となります。

---

## 全訳

良い質問は、素早い答えよりも大きな力を持つことが多い。授業中、生徒は自分が理解していない点を他人に知られたくないため、黙っていることがある。どれほど難しく思えようとも、質問をすることはより明確に考える助けになる。

良い質問は単に情報を求めるだけではない。それはまた、思考がどの方向へ進んでいるかを示す。例えば、生徒がなぜある出来事が起こったのかを尋ねるとき、その質問は生徒がすでに知っていることと、まだ不明なことを明らかにするかもしれない。

教師は、生徒が安心して質問できる教室の雰囲気を作るべきである。自信のある生徒もいれば、間違いを恐れる生徒もいる。自信のある生徒だけが発言するなら、教師は学級全体の理解度を誤解してしまうかもしれない。

質問は、考える速度を良い意味で遅くしてくれるので、なおさら有益である。素早い答えは便利に思えるかもしれないが、問題の構造を吟味することを妨げることがある。難しい授業の間に、適切なタイミングの質問は、全員が立ち止まり、自分の考えを整理する助けとなる。

生徒は完璧な質問をする必要はない。単純な質問であっても、より深い理解につながることもある。最初は小さなことに思えても、それは大きな議論への道を開くことがある。早い段階で小さな疑問に気づく生徒は、後になって大きな誤解を避けることが多い。

もちろん、質問することは考えることを放棄することではない。まず自分で考え、本文を見直し、その後で他の人にも理解できるほど明確な質問をする方がよい。良い質問には勇気と準備の両方が必要である。

質問は決して時間の無駄ではない。それは理解が止まっている正確な地点を見つける助けとなる。その地点が見つければ、学習ははるかに焦点の定まったものになる。また、生徒は正しいと思っていた考えが実は間違っていたことに気づくかもしれない。

結局のところ、質問のない教室は静かで秩序立って見えるかもしれないが、必ずしも本当の学びが起こる場所とは限らない。質問は教師と生徒を結びつけ、隠れた問題を明らかにし、思考を目に見えるものにする。上手に質問する準備ができていない生徒は、注意深く聞き、自立して考える力も身につけていない。したがって、質問は授業の妨げではなく、学習のための有用な道具なのである

